

ができ、最後に福井県立図書館を訪ね、所蔵「郷土資料」の所在状況について程々お話しを伺った。

〔註〕 以上短期日ではあったが、福井県織物業の歴史的究明に関連する資料の有無を予備調査した訳である。今後の研究の進め方としては、1) 福井県史・福井市史関係、2) 福井新聞(武生図書館所蔵)関係、3) 福井銀行関係などの資料探訪、4) 産地問屋関係者の聴取をおこなってゆきたいと考えている。

(文責・加藤幸三郎)

〔資料ノート〕

「近代化」購入図書資料一覧(No.6)

- ① 帝国蚕糸株式会社「大正九・十年第二次蚕糸業救済の顛末」 大正13年
- ② 長野県工場課「職工登録制度の話」 大正15年
- ③ 信濃教育会編「長野県の特産産業」 信濃毎日新聞社 昭和8年
- ④ 京都府何鹿郡蚕糸同業組合「何鹿郡蚕糸業史」 昭和8年
- ⑤ 五十嵐友幸「日本蚕糸業の再編成」 ダイヤモンド社 昭和15年
- ⑥ 上條愛一「日本の繊維産業」 春秋社 昭和28年
- ⑦ 尾崎章一「長野県蚕糸業外史」 上篇・下篇・戦後篇 3冊 大日本蚕糸会信濃支会
昭和29・33・41年
- ⑧ 山口和雄編「日本産業金融史研究 製糸金融篇」(東京大学経済学部日本産業経済研究叢書1) 東京大学出版会 1966年
- ⑨ 信濃毎日新聞社編「信州の人脈」上・下 2冊 昭和42年
- ⑩ 大川一司他「長期経済統計 推計と分析3 資本ストック」 東洋経済新報社 昭和41年
- ⑪ 江見康一・塩野谷祐一「長期経済統計 推計と分析7 財政支出」 東洋経済新報社 昭和41年
- ⑫ 梅村又次他「長期経済統計 推計と分析9 農林業」 東洋経済新報社 昭和41年
- ⑬ 南 亮進「長期経済統計 推計と分析12 鉄道と電力」 東洋経済新報社 昭和41年
- ⑭ 篠原三代平「長期経済統計 推計と分析6 個人消費支出」 東洋経済新報社 昭和42年
- ⑮ 大川一司他「長期経済統計 推計と分析8 物価」 東洋経済新報社 昭和42年
- ⑯ 中山伊知郎「日本の近代化」 講談社 1965年
- ⑰ 大来佐武郎「アジアの中の日本経済」 日本経済新聞社 昭和41年

- ⑱ 大来佐武郎「低開発国の貿易と開発」 日本経済新聞社 昭和41年
- ⑲ 矢内原 勝「低開発国の輸出と経済開発」 東洋経済新報社 昭和40年
- ⑳ 板垣与一「アジアの民族主義と経済発展」 東洋経済新報社 昭和41年

〔 所 報 〕

〔1〕臨時所員総会について

昭和43年度臨時所員総会は、10月8日(火)午後1時より神田第2会議室にて開かれ、所長改選をはじめとする以下議題を議した。出席者26名、委任状19名。

(1) 所長改選

石渡貞雄所長の任期途中での学部長就任に伴い、後任所長を投票により選出した。第一回投票で江沢譲爾所員が過半数の17票（有効投票総数20票）をえて、新所長に選出された。なお江沢所長の任期は、前所長の残任期間（43年度後半期）をふくめ、昭和44年、45年度とすることが確認された。

(2) 事務局長改選

はじめに玉垣事務局長より現行事務局長任期（2年）は事務局活動と教学面の現状から見て再検討の余地があり、全体の研究条件改善の集約的表現として事務局長任期問題を考える必要があること（例えば内地留学制度の具体化その他の教学上の負担軽減措置と結びついた事務局長任期問題の検討）、現状では任期一年での交替を妨げないとの了解で、次期事務局長選出を行いたいとの幹事会要請が説明された。この結果、事務局長任期問題は、幹事会の要請通り任期一年での交代もありうることが了承された。次いで事務局、幹事会より次期事務局長候補として望月清司所員が推選され、信認投票の結果、信任22票、白票1票（有効投票総数23票）、で望月所員が事務局長に選出された。

(3) 事務活動の中間報告

(イ)「研究叢書Ⅵ1」の刊行、(ロ)年報三号の進行状況、(ハ)研究会活動、(ニ)実態調査、について経過報告が行われた。

(4) 研究所事務局の生田移転問題についての経過報告

(5) 特定研究「日本近代化」の活動報告

福島新吾所員から「近代化」研究会幹事の一部変更（会計担当を殿村所員より佐々木金三所員に、資料担当を福島所員より近藤享一、殿村普一両所員に）と研究会プランについて報告された。

〔Ⅱ〕 43 年度 個人 研究 助成

今年度個人研究助成は期限までに申込のあった正村公宏「情報産業の研究」にたいし、夏休み前に助成金を交附した。なおグループ研究については、すでに計画書が提出され研究が進められている「マルクス『経済学批判要綱』研究」と「経済発展論」（略称比較体制グループ）にたいして近く助成額を決定するはずである。

〔Ⅲ〕 事務局 担当メンバーの一部変更

鍋島力也所員（資料担当）の教員組合書記長就任にともない、後任として二瓶敏所員が10月より事務局（常任）に加り、文献資料を担当することになった。

.....

正誤表 専修大学社会科学研究所月報 №58, №61 所収

オタ・シク「社会主義のもとでの市場諸関係と計画」（紹介）

その1 (№58)

	正	誤
P.15 - 14 行	平均して	平なして
P.21 - 1 行	Performance	Pertor

その2 (№61)

P. 5 英文タイトル	Socialist	Soeialist
同	Maurice	M auyice
P. 7 - 11 行(本文行数) ~ 14 行	「したがって、もし……支出するであろう。」 は重複のため削除。	
P. 7 - 下から 8 行(本文行数)	価値の一部を移転	価値の一部移転
P. 7 - 最下行	(最小コストで)	(最小コスト)
P. 8 - 6 行目	の現実の成長に比例して増大する、そして所得	所得(…以下脱落…) が総実現価値
P. 9 - 1 行目	全沢	全沢
P.12 - 下から 5 行	分配	分散
P.13 - 7 行(本文行数)	コスト	コント
P.13 - 下から 2 行	計画	計算
P.15 - 4 行目	ことではない。	ことではない。
P.18 - 下から 4 行(本文行数)	とりあわせて	とりあわせて

< 研究業績 >

前号以後の所員の研究業績は次のとおり。

- 〔著書〕 池田博行『シベリア経済史』（アジア研究所）
打田駿一・上田章『改正会社更生法』（布井書房）
大島太郎『日本地方行財政史序説』（未来社）
正村公宏『現代日本経済論』（日本評論社）
平館利雄『ソヴェト計画経済の展開』（新評論）
管井準一（編）『新しい科学の話』（現代教養文庫社会思想社）
内田義彦（編）『資本主義の思想構造』（岩波書店）
- 〔論文〕 伊東光晴『変革と修正—比較経済体制論への一視角』（「世界」270号）
宮崎犀一ほか5氏『イギリス経済の危機と労働党の対策<特集>』（「フェビア
ン研究」19— $\frac{4}{5}$ 号）
加藤幸三郎『九州炭礦部成立の諸前提—三井財閥形成過程によせて—』（「三
井文庫論叢」第2号）
加藤幸三郎『繊維工業II』（「商工政策史」第22巻 通産省商工政策史刊行会1968.3）
志村 嘉一『日本資本市場における信託会社』（「信託」73号）

< 編集後記 >

今回は特定研究「日本の近代化」の成果を頂きました。輸出の太宗として戦前日本資本主義を支えていたのが製糸業、その中心が諏訪地方（諏訪製糸同盟）であったわけですが、ここで
の労働者は、前借金の重しを肩にした子女で、特定企業が長期的排他的に使役しうる女工（権
利女工）として同盟に登録され、その権利が貸借・譲渡される始末でした。正に債務奴隷です。
そして今日、入水した女工の遺書「シャッキンガマダオワラズ、モウシワケアリマセン、オヤ
フコウヲオユルシクダサイ、ワタクシノカラダハモウダメデス、サヨウナラ」（山本茂美『あ
お野麦峠より』）が示す現実に憤りを禁じえません。何が明治百年なんでしょか。（L）

東京都千代田区神保町3の8
専修大学社会科学研究所 電話（265）6211～20〔内線53〕
（発行者） 江 沢 讓 爾